

2019年3月18日

報道関係者各位

株式会社セベック

ドローンやAIなど最新技術を活かした「密漁監視抑止・スマート港湾管理システム」の  
鳥羽磯部デモンストレーション会開催のお知らせ

株式会社 セベック（本社 東京都千代田区神田佐久間町4-14 代表 小豆嶋 和洋）は、岩手県の大槌町で実証実験を行ってありました「密漁監視抑止・スマート港湾管理システム」の商品化に伴い、三重県鳥羽磯部漁業協同組合とメディア各社の皆様に向けたデモンストレーション会を開催致します。密漁被害の拡大・漁場や藻場の環境変化・労働力不足・漁獲高の減少・燃料費の高騰など、様々な課題を抱える漁業におきまして、次の世代に「豊かで安全な漁場」と「スマートな港湾管理」の継承させるため、ドローンとAIの有効性をご覧ください。

**【デモンストレーション会開催の背景】**

全国の密漁による漁業被害は年間2,367件(2016年)発生しており、8年連続で2000件を超えている状況です。表面化されていない被害まで含めると、その被害額は年間推定4,000~5,000億円とも言われています。東日本大震災前の各漁協では、年間1000万円以上もの漁場管理費用を支出して、防犯カメラや監視艇などにより密漁の監視を実施していました。しかしながら、防犯カメラでは入り組んだ地形では死角が多く、監視艇では広域な海洋上で主に夜間に行われる密漁を人力で網羅することには限界があり、その被害を食い止めるに至っていませんでした。また、密漁者の性格上、その監視・抑止行為には大きな危険が伴っておりました。そして、岩手県大槌町の新おおつち漁業協同組合と株式会社セベックが、この問題を解決するために2017年3月より実施してきた「ドローンとAIによる密漁監視・抑止」の実証実験が、2018年8月に完了しました。

また、これまでの実証実験の中で漁業におけるドローンの多様な利活用が注目され、「養殖筏や定置網の点検」「漁場や藻場の環境調査」「海難救助支援」など、密漁監視・抑止以外でも港湾管理における様々なシーンでドローンの機動力を活かせることが実証されました。

現在、漁業では「密漁被害の拡大」「漁場・藻場の環境変化」「労働力不足」「漁獲高の減少」「燃料費の高騰」など様々な課題を抱えており、これらの課題を解決していくことが期待されている「密漁監視抑止・スマート港湾管理システム」の商品化に伴い、皆さまにその有効性をお伝えするため、鳥羽磯部漁業協同組合のご協力の元、デモンストレーション会を開催する運びとなりました。

### 【デモンストレーション会の内容】

- ・密漁監視抑止・スマート港湾管理システムの概要説明
- ・養殖筏や定置網の点検、海難救助、密漁監視について、映像を公開
- ・自動航行・赤外線カメラについて、ドローンを飛行させてライブの映像を公開

### 【デモンストレーション会の見どころ】

- ・ドローンとAIによる最高レベルの抑止力を持った密漁監視
- ・ドローンによって省力化を実現する港湾管理
- ・光源を必要としない赤外線カメラ搭載ドローンによるライブ映像

### 【実施日時】

2019年4月11日（木）17:00～19:00

※雨天の場合は、翌日の12日（金）10:00～12:00に開催

### 【実施場所】

石鏡漁港 石鏡漁船漁業用作業保管施設付近

※Google マップにて「石鏡漁船漁業用作業保管施設」で検索してお越しください。

### 【デモンストレーション会への参加申込・お問合せ窓口】

- ・株式会社 セベック  
担当：石田（ドローン事業本部）  
電話：03-5809-1434 FAX：03-5809-1435  
携帯：070-1385-8248 E-mail：ishiday@sebec.co.jp
- ・鳥羽磯部漁業協同組合  
担当：久保田（直販事業課 企画販売促進担当）  
電話：0599-25-1251 FAX：0599-25-2078  
携帯：080-3631-8957 E-mail：m-kubota@tobaisobe.jf-net.ne.jp

### 【協力団体】

鳥羽磯部漁業協同組合・一般社団法人日本 UAV 利用促進協議会

以上